



|              |                                                                             |
|--------------|-----------------------------------------------------------------------------|
| Title        | あいりん地域における健康支援：結核対策を中心に                                                     |
| Author(s)    | 井戸，武實                                                                       |
| Citation     |                                                                             |
| Version Type | VoR                                                                         |
| URL          | <a href="https://doi.org/10.18910/81421">https://doi.org/10.18910/81421</a> |
| rights       |                                                                             |
| Note         |                                                                             |

*The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA*

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

The University of Osaka

## あいりん地域における健康支援

### —— 結核対策を中心に ——

公益財団法人大阪公衆衛生協会

元 NPO HEALTH SUPPORT OSAKA

井戸武實

#### 1. あいりん地域とは

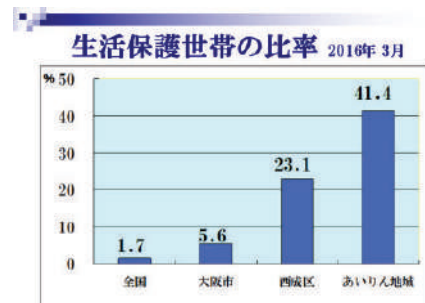
大阪市西成区萩之茶屋周辺の JR 大阪環状線新今宮駅の南に位置する日本最大のドヤ街・寄せ場（日雇労働者の就労する場所）。

1966 年 5 月に国や自治体などの行政機関と報道機関との統一名称となった。釜ヶ崎（旧来からの地名）とも呼ばれる。



新今宮駅まえにある複合施設には、大阪府が所管する公益財団法人西成労働福祉センターと大阪市が所管する社会福祉法人大阪社会医療センター附属病院がある。西成労働福祉センターでは日雇仕事の紹介、資格の取得や技能習得を支援する技能講習、面接の受け方・履歴書の書き方についての就職相談などを行っている。大阪社会医療センター附属病院は、あいりん地域及びその周辺に居住する生計困難者のために、社会福祉法第 2 条第 3 項第 9 号に定められた無料又は低額な料金を診療を行っている。

生活保護世帯の比率（2016 年 3 月）を見ると、全国は 1.7%，大阪市は 5.6%，西成区 23.1%，西成区名のあいりん地域だけ見ると 41.4%と全国の 24 倍となっている。



あいりん地区は、大阪府大阪市西成区の北部、JR 新今宮駅の南側に位置する簡易宿所・寄せ場が集中する地区の愛称で釜ヶ崎とも呼ばれる。

面積は 0.62 km<sup>2</sup>に人口は(2015 年 国勢調査) 17,188 人で生活保護受給状況は 8,973 世帯(単身) となっている。(資料出所: 西成区役所(平成 26 年 3 現在))

結核の状況については、人口 10 万対のり患率(2020 年)で見ると比較がしやすい。全国 12.3、大阪府 20.5、大阪市 29.3、あいりん地域は 409.3 と全国の 33 倍を呈している。

り患率の推移は 1990 年で全国: 41.9、大阪市: 105.7、あいりん地域: 1573.3

2020 年で全国: 12.3、大阪市: 29.3、あいりん地域: 409.3 となっている。

結核の感染は、結核菌を持った人が「咳」をすることで結核菌は空気中に撒き散らされ、空中で浮いているものを他の人が吸い込むことによって感染する空気感染である。これは飛沫核感染ともいう。手を握る、同じ食器を使う、などで感染することはない。

## 2. 感染症法に基づく結核の接触者健康診断

感染性の結核患者とは、喀痰等を介して空気中に結核菌を排出して、他者へ感染させる可能性のある結核患者である。結核の接触者健康診断で発見されたホームレスの結核患者は、郊外の結核病床を有する病院に搬送され入院となる。しかしその内 60%の人々は結核菌が排出していないので在宅外来での治療が可能である。在宅治療の場合、筋力の衰えを防止できる。また、治療終了後は速やかに日常生活に戻ることができる。

## 3. あいりん地域の夜間緊急宿泊所(シェルター)

NPO 釜ヶ崎支援機構が運営しているシェルターは最大 450 人が収容できる。寝る場所がない人々が希望すれば無償で宿泊できる。またシェルターの中にはテレビを見ながら休憩できる部屋もあり、シェルターは人々にとって大切な施設である。



## 4. NPO HEALTH SUPPORT OSAKA 設立

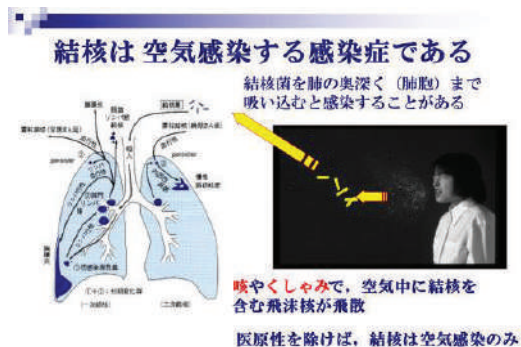
ホームレス生活者をはじめとする健康弱者ともいえる、保健・医療・福祉の手がとどきにくい人々の生活を支え、命を守るため、健康支援活動を推進するとともに、必要な関係機関・団体の協議の場づくり、研究ならびに研修・人材養成を行い、そのことを通して市民が

安心して暮らせる社会の創造に寄与することを目的として 2006 年 11 月に設立した。

ホームレス生活者、日雇労働者を対象にして、病院・保健所・福祉事務所などの専門施設などと協働して、健康相談・結核 CR 検診への協力・訪問型 DOTS・人材育成・情報発信を行ってきた。

結核は世界最大の感染症

- 全世界で 20 億人 が感染
  - 2010 年には 新たに 約 880 万人 が結核を発病
  - 145 万人 が結核で死亡
  - 2010 年は 新規結核患者のうち 110 万人が HIV に重複感染している
- (WHO: TB Fact sheet 2011/2012), WHO: Global Tuberculosis Control 2011)



結核は 空気感染する感染症である

結核菌を肺の奥深く(肺胞)まで吸い込むと感染することがある。咳やくしゃみで、空気中に結核菌を含む飛沫核が飛散して空気感染する。

結核の発病の経過は結核菌に感染したら、すぐに発病するのは約 10%で、90%は発病にいたらない。結核発病のハイリスクとして免疫力が弱る糖尿病、腎臓病(人工透析を受けている)、胃潰瘍、胃切除、ステロイドや抗ガン剤による治療中、強いストレス、貧困・栄養・体力低下などが挙げられる。

結核患者はすべて感染性があるのではない。感染性があるのは、肺結核と喉頭結核のうち、痰とともに結核菌を排出している(「排菌している」という)患者だけである。

結核の早期発見のためには、咳や痰が長く続く(通常は2週間を目安に)などの症状があらわれた場合は、医療機関を受診する定期的な検診(健診)を受ける。また、身近な人が結核にかかっていることがわかったら、接触者検診として自分も検査を受けること。

結核薬の内服の注意点として、内服により数週間で症状として咳・痰などは消失することが多いが、この時点で服薬を中断してしまうと薬剤が効かない耐性菌が出現する。

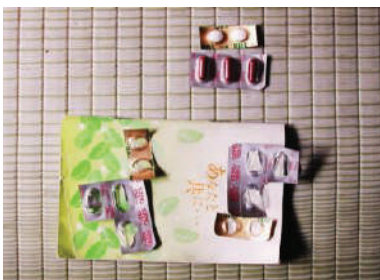
## 5. あいりん地域における 訪問型 DOTS

DOTS とは、Directly Observed Treatment, Short-course の略号である。抗結核薬の内服



を治療終了まで確実にを行うための方法として、1960 年前後にインド・マドラスと香港で試験的に導入されたのが最初であり、1990 年代にニューヨークで結核が問題となったときに導入され、世界的に注目されるようになった。

あいりん DOTS の種類は、①拠点型、②訪問型、③自立支援型、④その他があり、拠点型は月～金曜の毎日大阪自彊館あいりん相談室へ通い支援者が服薬を確認している。訪問型は支援者が患者の指定する場所に訪問し服薬を確認している。自立支援型は治療期間中、住居を提供し、服薬支援者が服薬を確認している。その他は、西成区役所あいりん分室等で支援者が服薬を確認している。

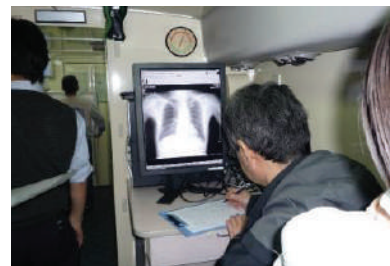


薬の写真は、保健師が月曜日に訪問した際のものである。

土日は訪問が出来ず、土曜日飲んだ空袋、日曜日に飲んだ空袋を確認して、本日、今から飲む薬である。

## 6. CR 結核検診車（Computed Radiography）車を用いての健診

大阪市は 2006 年 4 月から CR 結核検診車による検診を新規に運用開始した。それまではフィルム式の엑스線検診で、フィルムを現像して乾燥する時間が必要で即時の検診結果を受診者に知らせることができなかった。このため、結核と診断されても治療には結びつかなかった。それに変えて CR 車での健診は、デジタル X 線直接撮影＋読影医師が同乗して撮影後、1 分以内に結核診断が可能となった。



《西成区の結核健診による患者発見率の推移》

- 2013：受診者 8,109 で発見結核患者 58（発見率 0.72%）
- 2014：受診者 9,409 で発見結核患者 40（発見率 0.43%）

- 2015：受診者 8,678 で発見結核患者 41（発見率 0.47%）
- 2016：受診者 9,045 で発見結核患者 42（発見率 0.46%）
- 2017：受診者 8,761 で発見結核患者 29（発見率 0.33%）
- 2018：受診者 7,948 で発見結核患者 23（発見率 0.29%）

## 7. 大阪社会医療センター付属病院

社会福祉法に規定する無料低額診療事業施設で、生活困窮者が経済的な理由により医療を受ける機会が制限されることがないように無料又は低額料金で診療を行う。内科・外科・整形外科・精神科・皮膚科・泌尿器科をもち、入院患者は、1日平均 73 人、外来 1日平均 462 人（2010 年 1 月度）。

受診者の 90%は生活保護患者である。同病院への診療依頼書は、西成労働福祉センター・大阪市立更生相談所・西成区保健福祉センター・NPO 釜ヶ崎支援機構・NPO HEALTH SUPPORT OSAKA が発行してきた。あいりん地域になくてはならない医療機関である。

NPO HESO は、2006～13 まであいりん DOTS、CR 結核健診受付問診業務に加えて、医師・看護師・保健師等の研修を行ってきた。

プログラムは、NPO HESO の活動概要説明、大阪社会医療センターの視察研修、西成労働福祉センターでの視察研修及びあいりんフィールド研修として、臨時夜間緊急避難所（シェルター）、サポータティブハウス・四角公園・三角公園炊出し・禁酒の館・自転車リサイクルプラザ・ふるさとの家・大阪市立更生相談所等の視察研修である。



## 8. 高齢者特別清掃事業

大阪府と大阪市は、1994 年から高齢者特別清掃事業として就労環境が厳しい 55 歳以上の高齢日雇労働者を登録して雇用の安定を図るために開始した。登録者の 50% がシェルターを利用している。1 日の就労数は 196 人、1 日の賃金は 5,700 円、月に 5 回～6 回働け、月に 3 万円程度の収入が確保できる。



## 9. あいりんの課題(1)

あいりん地域在住者は、多くは単身男性で孤立生活を余儀なくされ、体力、知力に見合った仕事がない。自立生活支援の不備からの貧困、生活保護を受けたくない、生活を縛られるのがいやとするホームレスの貧困が存在する。

## 10. あいりんの課題(2)

炊き出しに頼る食生活、活動する気力もなく横たわる人、夜のアルミ缶集めなどの不規則な生活、保険がなく医療受診も難しいため重症化することになる。そして、気軽に相談できるところを知らない。

## 11. あいりんの健康課題

結核、高血圧・糖尿病など生活習慣病、アルコール依存症、肝機能障害、生きる気力を失い精神を病む人が存在する。

あいりん地域の問題は、日本全体の問題の縮図である。個々の組織の枠を超えた取り組みが必要である。諸問題の解決には、住民・行政・企業・NPO・医療・研究機関などが協同して地域の貧困問題に立ち向かう必要がある。